

令和5年11月24日
(2023年)

保護者のみなさまへ

吹田市立吹田東小学校
校長 三宅 友子

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率を下回った。
- ・複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

●国語《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・敬語の使い方を選択する問題では、時間配分が原因であることも予想されるが、無解答率が高かった設問もあり、漢字では、言葉の意味を正しく理解することに課題が見受けられる。

情報の扱い方に関する事項

- ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことに課題がある。
- ・重要な言葉であるということは理解できているが、その言葉とほかの言葉の関連性が結びついていないようである。

話すこと・聞くこと

- ・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることは概ねできている。
- ・グラフからの情報を読み取って、自分の考えが伝わるように、工夫して書き表すことに課題がある。

読むこと

- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したものを選択する問題は府や全国平均と同じであった。
- ・複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題がある。

●国語科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・問題文をしっかりと読み込めれば正答できる問題が多くあったため、読解力をつけるための学習活動を充実させることが重要である。
- ・どの問題でも無解答率が高いため、最後まであきらめずに問題に向き合う力を高める必要がある。

●算数《概要》

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率を下回った。
- ・図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること

図形

- ・正三角形の意味や性質について理解しているかどうかについては全国平均を上回った。

変化と関係

- ・概ね全国平均と同じであった。
- ・比例を用いて解く方法と、一つ分を用いて解く方法の2種類が同じ割合でみられた。

データの活用

- ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることは概ねできているが、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述することに課題がある。

●算数科における成果と今後の指導改善のポイントについて

- ・全体的に記述問題の正答率が低く、無解答率も高くなる傾向が見られるため、日頃から自分の考えを文章や図等を用い、わかりやすく説明する時間を確保し、記述して表す力や意欲を高めていく指導を行う必要がある。
- ・順序立てて説明する力をつけるために、箇条書きや番号をつけて説明することを日頃の授業から取り組んでいく。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「毎朝朝食を食べている」や「毎日同じ時刻に就寝・起床ができている」の項目に対して、肯定的な意見がすべて全国平均と同じ、もしくは高い結果（90%以上）となっている。
- ・「読書が好き」と回答している児童が全体の約80%を占めているが、学校の授業時間外（休み時間や放課後、家庭）での読書をしている児童が少なく、また、地域の図書館などを活用している児童も全体の約20%という結果であった。
- ・「学校に行くのは楽しいと思うか」の項目では、全国値より高い92%という結果であった。
- ・「友達関係に満足していますか」の項目では、全国、大阪府より高い。特に「当てはまる」と答えた児童が全国、大阪府より15%程度高い。
- ・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の項目は、全国、大阪府より高い。特に「よくある」と答えている児童の割合が全国、大阪府より18%も高い。
- ・「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どれぐらいの時間、勉強しますか。（塾、家庭教師、インターネットを活用した学習も含む）」という質問に対しては、「1時間以上2時間より少ない」の割合は全国、大阪府よりも低く、全国よりも19%低い。30分より少ないと答える児童が全国より14%多い。

3 今後の取り組み

本校では学習指導要領が示す主体的・対話的で深い学びを具現化するために、「子どもたちが興味を持って、主体的に学ぶ力を育てる」を学力向上の目標としています。算数科では、従来の内容を教える内容ベースの指導から、子どもたちが何を学び、学んだことを活用する力をつけていく、子ども主体の能力ベースの授業改善に取り組んでいるところです。今年度も昨年度に引き続き、算数科の「図形」領域に焦点を当てた教科研究を行い、授業の中で子どもたちにつけたい力を明確にし、授業のねらいに基づく「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を位置づけた子どもたちにとって「わかる」「できた」という喜びを味わえる授業づくりに努めています。

今回の調査では国語・算数ともに、資料を読み取って自分の考えを順序だてて説明することや工夫して表現することについて課題であることがわかりましたので、各教科で自分の考えを書く学習活動を継続して行います。また、授業の中で子どもたち同士が交流する場を積極的に取り入れることにより、児童の考えを深めたり広げたりするとともに、互いの理解の定着を促すようにしていきます。

一人一台整備されたタブレット端末を授業の中で効果的に活用し、個に応じた指導や分かりやすい授業づくりを継続して進めてまいります。

生活環境や学習習慣等の結果を踏まえては、「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足していますか」の項目では、大阪府・全国の平均値より高かったことから、今後も人権教育や道徳教育等で取り組んでいる子どもたちの自尊感情を高める「みんなすて木」などの取り組みや子どもたちが活躍する子ども主体の学校行事や児童会行事の充実を図ってまいります。

保護者の皆さまにおかれましては、家庭と学校が連携し、子どもの自立と学びの機会をつくるために、ご支援ご協力をお願いいたします。

○児童の力をさらに伸ばすために、ご家庭でも次のようなことに心がけていただければと思います。

1、家庭での学習環境を整え、学習時間を確保しましょう。

◎学習する時間や場所を決め、学習習慣を身につけさせましょう。

◎携帯電話やスマートフォンでSNSや動画・ゲームの時間を決め、長時間にならないようにしましょう。

2、生活のリズムを整え、お子さんとの会話の時間を大切にしましょう。

◎「早寝・早起き・朝ごはん」で規則正しい生活をしましょう。

◎学校での出来事について、話したりしましょう。

◎最近読んでいる本の内容、新聞やテレビのニュースの話題について話し合ひましょう。

◎家庭で読書をする時間を持ちましょう。